

「幸いな人、哀れな人」

ルカの福音書 6:20~26

はじめに

今日のイエシュアの御言葉は、マタイの福音書（5:1~12）では「山上の垂訓」と呼ばれる、有名な説教と一部重複した内容のもので、いくつか異なる点もありますが、共通していることはどちらも「天の御国」「神の国」を指し示しているということです。ではその「神の国」とは何か、どのようなものか、そしてそこに入る者とはどのような者たちのことかということについて述べながら、読み進んでまいりたいと思います。

1. 貧しい人たち

ルカの福音書【新改訳 2017】

6:20 イエスは目を上げて弟子たちを見つめながら、話し始められた。「貧しい人たちは幸いです。神の国はあなたがたのものだからです。」

ここでイエシュアが語っておられる「**貧しい**」とは、物質的、経済的な貧しさ、乏しさだけを指すものではありません。また知識的、精神的なそれだけを指すものでもありません。なぜならここに使われているヘブル語オニー(אֲנִי)とは本来、主人の家を追われた、逃げ出した一人の女奴隷の苦しみを表した言葉だからです。

創世記【新改訳 2017】

16:6 アブラムはサライに言った。「見なさい。あなたの女奴隷は、あなたの手の中にある。あなたの好きなようにしなさい。」それで、サライが彼女を苦しめたので、彼女はサライのもとから逃げ去った。

16:7 【主】の使いは、荒野にある泉のほとり、シュルへの道にある泉のほとりで、彼女を見つけた。

16:8 そして言った。「サライの女奴隷ハガル。あなたはどこから来て、どこへ行くのか。」すると彼女は言った。「私の女主人サライのもとから逃げているのです。」

16:9 【主】の使いは彼女に言った。「あなたの女主人のもとに帰りなさい。そして、彼女のもとで身を低くしなさい。」

16:10 また、【主】の使いは彼女に言った。「わたしはあなたの子孫を増し加える。それは、数えきれないほど多くなる。」

16:11 さらに、【主】の使いは彼女に言った。「見よ。あなたは身ごもって男の子を産もうとしている。その子をイシュマエルと名づけなさい。【主】が、あなたの**苦しみ**を聞き入れられたから。」

この出来事はイスラエルの父祖アブラムとその妻サライの家において起こったものです。サライは不妊の女であったため、自分の女奴隷ハガルを夫に与え、その結果ハガルは身ごもりました。しかし奴隷であったハガルでしたが、次第に主人のサライを見下すようになり、これに怒ったサライはハガルを家から追い出してしまいます。この主人の家を追われた奴隷ハガルに対して御使いが語った御言葉の中に、聖書で最

初のオニーがあり、ここでは「**苦しみ**」と訳されています。このように「**貧しい人**」とは主人の家を追い出された奴隷、あるいは自ら逃げ出した奴隷のような状態、そのような存在を指す言葉なのです。そしてそれはすなわちイスラエルの民を指し示した「型」です。なぜなら彼らは神の民、アブラハムの子孫として選ばれた民であったにもかかわらず、神の前に高ぶり、逆らい、その結果多くの災いを受け、神が彼らに約束された地を追い出され、散らされ、流浪の民となるという預言が聖書にいくつも記され、そしてその成就もまた聖書に記されているからです。

申命記【新改訳 2017】

28:15 しかし、もしあなたの神、【主】の御声に聞き従わず、私が今日あなたに命じる、主のすべての命令と掟を守り行わないなら、次のすべてののろいがあなたに臨み、あなたをとらえる。

28:58 もしあなたが、この書物に記されている、このおしえのすべてのことばを守り行わず、この栄光に満ちた恐るべき御名、あなたの神、【主】を恐れないなら、

28:59 【主】はあなたへの災害、あなたの子孫への災害を驚くべき仕方です。大きな長く続く災害、長く続く悪性の病気である。

28:60 主は、あなたが怖がっていたエジプトのあらゆる悪疫を、再びあなたにもたらされる。それがあなたにまといつく。

28:61 【主】は、このみおしえの書に記されていない、あらゆる病気、あらゆる災害までもあなたの上に臨ませ、ついにあなたは根絶やしにされる。

28:62 あなたがたは空の星のように多かったが、少人数しか残されない。あなたの神、【主】の御声に聞き従わなかったからである。

28:63 かつて、【主】があなたがたを幸せにし、あなたがたを増やすことを喜ばれたように、【主】は、あなたがたを滅ぼし、あなたがたを根絶やしにすることを喜ばれる。あなたがたは、あなたがたが入って行って所有しようとしている地から引き抜かれる。

28:64 【主】は地の果てから地の果てまでのあらゆる民の間にあなたを散らす。あなたはそこで、あなたも、あなたの先祖たちも知らなかった、木や石で造られたほかの神々に仕える。

28:65 これら異邦の民の間であって、あなたは一息つくこともできず、足の裏を休める場もない。【主】はそこで、あなたの心を不安にし、目を衰えさせ、たましいを弱らせる。

28:66 あなたのいのちは危険にさらされ、あなたは夜も昼もおののき、自分が生きることさえ、おぼつかなくなる。

ユダヤ人とも呼ばれる彼らイスラエルの歴史は、今日に至るまでまさにこの預言の成就の連続です。人種差別や奴隷制度は世界中の様々な民族、国家の中でも見られますが、人種撲滅、「**根絶やし**」にされるほど憎まれ、苦しめられる民族はこのイスラエルの民以外にはありません。イエシュアはここで取り上げている、「**目を上げて弟子たちを見つめ**」ておられるそこには彼らの存在が映し出されているのです。ですからここでの「**貧しい人たち**」とは、神のご計画の視点で捉えるならばそれはイスラエルです。そしてこの貧しい人たちに約束されている「**幸い…神の国**」とは抽象的、象徴的なものではなく、エルサレムに建つ神殿、そこに住まわれる王なるメシアによる支配と統治によるイスラエル王国の復興および「千年王国」

とも呼ばれる、地上におけるイスラエルを中心とした世界の統治形態を指すものなのです。そしてそのイスラエルを治めるメシアとはもちろんここで語っておられるイエシュアご自身です。ですからイエシュアはやがてその散らされた流浪の民イスラエルを自らの手で集め、彼らの国もろともこれを建て直し「**神の国**」を完成させることをここに約束、宣言しておられるのです。それがこの「**貧しい人たちは幸いです。神の国はあなたがたのものだからです。**」という御言葉に秘められた神の御心、ご計画です。

私たちは「貧しい」と聞くとすぐそれはお金がないこと、または知識が乏しいこと、心がせまいことなどと連想してしまいがちですが、それは聖書全体に一貫している神のご計画、特にイスラエルに対する神の選びを完全に無視した解釈となってしまいます。聖書とは私たちのささやかな生活、短い人生に起こるわずかな出来事で解き明かされるべきものではありません。聖書はすべて、聖書によって解き明かされなければならないのです。そうしなければ私たちの目は、思い考えは、聖書によってますます神のご計画から離れ、自分のことだけに埋没していくという結果を招くからです。もう一度言います。聖書は聖書によって解釈されなければならないのです。しかしそのように聞くとあなたはこれまで身近に感じていた聖書の神を、どこか遠くかけ離れたもののように感じるでしょう。その感覚はとても大切です。そうなのです。私たちは本当に、神から遠く離れているのです。私たちは神を知っているようで知らず、信じていると言いながら一体何をどう信じているのか、実は分かっていないのです。

ヨハネの黙示録【新改訳 2017】

3:14 また、ラオディキアにある教会の御使いに書き送れ。『アーメンである方、確かに真実な証人、神による創造の源である方がこう言われる――。

3:15 わたしはあなたの行いを知っている。あなたは冷たくもなく、熱くもない。むしろ、冷たいか熱いかであってほしい。

3:16 そのように、あなたは生ぬるく、熱くも冷たくもないので、わたしは口からあなたを吐き出す。

3:17 あなたは、自分は富んでいる、豊かになった、足りないものは何もないと言っているが、実はみじめで、衰れで、貧しくて、盲目で、裸であることが分かっていない。

このように、聖書は私たちのこの現実、自分や人の「行い」ばかりに目が眩まされている現実について警告しています。そして事実、私たちは神の「口から」すなわち御言葉を味わい、理解し、これを受け取るということから「吐き出」され、離されてしまっているのです。そのような意味では私たち教会もまたイスラエルと同様に「貧しい人たち」なのです。しかし失望するには及びません。なぜなら述べたように、イエシュアは「**神の国はあなたがたのものだ**」と約束しておられるからです。このように、イスラエルにせよ、私たち教会にせよ、人の「行い」ではなく神の御言葉に示されたご計画に、それを成し遂げられる御子イエシュアにこそ目をとめなければならないのです。

2. その日

ルカの福音書【新改訳 2017】

6:21 今飢えている人たちは幸いです。あなたがたは満ち足りるようになるからです。今泣いている人たちは幸いです。あなたがたは笑うようになるからです。

6:22 人々があなたがたを憎むとき、人の子のゆえに排除し、ののしり、あなたがたの名を悪しざまにけなすとき、あなたがたは幸いです。

6:23 その日には躍り上がって喜びなさい。見なさい。天においてあなたがたの報いは大きいのですから。彼らの先祖たちも、預言者たちに同じことをしたのです。

この御言葉を読んで、今日も多くのクリスチャンが、その人生の苦しみの中でも必死に喜ぼうと、痛みの中で主に感謝しようとがんばっています。それは「その日には躍り上がって喜びなさい」という御言葉を、苦しいその日に、悩んでいるその時に、と理解してしまっているからです。しかし、もし先ほどの女奴隷ハガルがそんな態度をとっていたら、神は御使いを遣わされなかったでしょう。なぜなら「主が、あなたの苦しみを聞き入れられたから」とあるからです。また旧約聖書に記されたイスラエルの歴史の中で、神は預言者たちを遣わし、何度もその窮地から彼らを助け出されましたが、ただの一度も彼らが歯を食いしばって喜んで躍り上がったことによってそれをなされたことなどありません。いつでも彼らが嘆き、叫び求めた時に「主が…苦しみを聞き入れられた」ことによってそれがなされてきたのです。ですから皆さん、やせ我慢はやめましょう。主はいつでもあなたの苦しみ、嘆き、叫びを聞かれる御方です。私たちは今は主に向かってその苦しみを、うめきを、嘆き叫ぶ声を上げるべき時なのです。どうぞ主の御名を、イエシュアの御名を呼び求め、あなたの苦しみを主の御前に響かせ、聞いていただきましょう。それが今の私たちの召しであることがここには語られているのです。

そして主がそれに応え、与えてくださるものは、先ほども述べた「神の国」です。ですから「その日には躍り上がって喜びなさい」とは、「神の国」がこの地上に現実となって現れる「その日」なのです。決して気休め程度の癒し、些細な問題の解決のような、わずかな慰め程度のものと誤解しないでください。

3. 哀れ

ルカの福音書【新改訳 2017】

6:24 しかし、富んでいるあなたがたは哀れです。あなたがたは慰めをすでに受けているからです。

6:25 今満腹しているあなたがたは哀れです。あなたがたは飢えるようになるからです。今笑っているあなたがたは哀れです。あなたがたは泣き悲しむようになるからです。

6:26 人々がみな、あなたがたをほめるとき、あなたがたは哀れです。彼らの先祖たちも、偽預言者たちに同じことをしたのです。

「哀れです」、これをヘブル語でオーイ(אוי)と言います。どうかこれからは誰かを呼ぶ時にオイとかオーイとか言わないようにしてください(笑)。しかしこの言葉は決して冗談や笑いごとではすまされない、厳しい現実を意味する言葉なのです。

民数記【新改訳 2017】

21:29 モアブよ、おまえはわざわいだ。ケモシユの民よ、おまえは滅び失せる。

これはモーセ率いるイスラエルとの戦いに敗れた、偶像ケモシユを信仰するモアブ人たちに対する詩、預言です。「おまえはわざわいだ。」ここに聖書で最初のオーイが使われています。このようにオーイとは本来、

イスラエルの神、主に敵対し、偶像にひざをかがめる者たちが「滅び失せる」ことを指し示した言葉なのです。人がもしイスラエルの神、主とその民に敵対し、否定し、これを拒絶するならば、それはイスラエルの民によってすべての民族が神の祝福に与るという約束の成就（創世記 12:3）である「神の国」を否定し、拒絶することと同じ意味を持ちます。この「神の国」を求めない、望まない者に待っているものは、逆にイスラエルの神によって「滅び失せる」ということです。

ルカの福音書【新改訳 2017】

12:5 恐れなければならない方を、あなたがたに教えてあげましょう。殺した後で、ゲヘナに投げ込む権威を持っておられる方を恐れなさい。そうです。あなたがたに言います。この方を恐れなさい。

オーイとはこのような権威を持った御方を恐れない者に待ち受ける悲惨な、最悪の結末を指し示す言葉なのです。そしてこの滅びに入って行く者はオーイ（「多い」マタイ 7:13）とイエシュアは言っておられます。

4. 主に向かって叫べ

先ほども述べたように、主は人の喜び楽しむ声を聞かれる御方ではなく、主に向かって苦しみ、嘆き、叫ぶ人の声を聞かれ、救い出される御方です。経済的、物質的な豊かさを喜んでいる人はこの声を上げることができません。今の人生に満足して楽しんでいる人、人から愛され賞賛され高揚感に浸っている人も同様です。そしてこれらの状態を日々追い求めて生きる人もまたそうです。主が私たちに備えてくださっているものは「哀れ」な人が求めている今の幸せではなく、やがて来る「神の国」なのです。そして「その日」を求め、恋い慕い、思いを馳せ、待ち望みつつ耐え忍び、今を生きようと主に選ばれているのです。そのような考え方、生き方は当然のことながら、今の世のそれと逆行するものとなります。今が生きづらくなることは必然です。しかし聖書に記された信仰の人々はみなそのように生き抜いたのです。

ヘブル人への手紙【新改訳 2017】

11:24 信仰によって、モーセは成人したときに、ファラオの娘の息子と呼ばれることを拒み、

11:25 はかない罪の楽しみにふけるよりも、むしろ神の民とともに苦しむことを選び取りました。

11:26 彼は、キリストのゆえに受ける辱めを、エジプトの宝にまさる大きな富と考えました。それは、与えられる報いから目を離さなかったからでした。

しかしその信仰の人々の筆頭におられるのが信仰の創始者であり完成者である御方、神でありながら「人の子」となられたイエシュアです（ヘブル 12:2）。この御方こそまさに憎まれ、ののしられ、悪しざまにけなされ、排除され、十字架の上で「エリ、エリ、レマ、サバクタニ（マタイ 27:46）」と大胆に悲痛な言葉を、苦しみの叫び声を上げられた御方です。私たち教会はこのイエシュアの歩まれた道に従うように召されているのです。ですから私たちはその選びと召しにふさわしく、苦しみ、嘆きをもって主を呼び求めるべきなのです。私たちに主イエシュアを、その御名を呼び求めさせるものは喜びや感謝ではありません。苦しみ悩み、痛みこそがそれなのです。そして終わりの日にイスラエルの残りの者たちがイエシュア

の地上再臨を目の当たりにしますが、そのきっかけとなるものもやはり喜びではなく嘆き「嘆願の霊」(ゼカリヤ 12:10) の注ぎによるものです。

ですから皆さん、どうぞ大いに主に向かって苦しみ的心声を、嘆き、叫ぶ者であってください。主イエシュアよ、来てください(黙示録 22:20)、と御名を呼ぶ者であってください。主は必ずあなたに「[神の国](#)」を与えてくださるからです。